

平成28年度 学校評価実施報告書

宇多野小学校

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	少人数指導 ノート検定 授業指導ノート タブレット学習 常タイムの充実 「めあて・まとめ・振り返り」カードの活用 全クラス授業 自主学習のススメ冊子の配布 自主学習掲示板 調べ学習コンクール	話をよく聞いているか。授業中の発表はできているか。学習ノートを見やすく書いているか。各学力調査結果
	家庭学習の習慣化	自主学習のススメ冊子の配布 自主学習掲示板 調べ学習コンクール	家庭学習で宿題以外の学習をしているか。
豊かな心	学校図書館の有効活用	図書館活用の校内研究 司書教諭・学校司書との協力指導 地域ボランティアによる図書館開館 朝読書 ボランティア・教職員の読み聞かせの実施 読書ノート	本や資料を学習に使っているか。
	「公共の精神」に基づく態度の育成	安全指導 あいさつ運動 保護者・地域による行事の企画、参加	自分からあいさつができていますか。学校のまきりや社会のルールを守っているか
健やかな体	児童会の協働活動	たてわり活動 うたのタイムでの全校交流 ソーシャルスキルワーク	他の人を思いやり、親切にしているか。
	自他を大切にす態度の育成	たてわり活動	周りの人から大切にされているか。
独自の項目	体力の向上	部活動の取組 朝・業間マラソンの実施	外遊びやスポーツなどで毎日体を動かしているか。
	小中一貫教育の推進	4校主任会 小中公開授業への参加 図書相互貸借9年間の学びのルールを配布・徹底	小中の連携が組織的に取られていますか。(教職員)小中合同研修会 小中合同学校運営協議会
独自の項目	学校図書館の充実	図書館活用委員会 司書教諭と学校司書との連携 読書ノートの活用	読書の習慣が身に付いているか。
	読書の習慣化 食に関する指導の充実	栄養教諭の食に関する指導 専門家と連携した伝統的食文化の授業 給食試食会	食育授業後の児童・保護者アンケート 朝ごはんしらべ



・アンケート実施結果, その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月19日
	評価者・組織	学校評価委員会
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「出来ている児童」話を聞く95% 発表74% 学習ノート83% 6年生の全国学力テストでは国語、算数共に全市、全国平均を上回った。	話を聞く「出来ている」児童は3%上昇した。宿題以外の学習「出来ている」児童は昨年度と同じ。本や資料を使って学習「出来ている」児童7%上昇した。授業での活用は増えている成果だと考える。常タイムで曜日を決めて計算や前年度の漢字に取り組んでいる。	めあて、まとめ、振り返りをきちんと1時間の学習時間に行うこと、またつけた力を明確にしたり、分かりやすい板書を書くようにしたりして、授業力の向上を目指す。各学年での記入内容を示し、ノート指導を徹底すること。合わせて、ノートを書くことへの意欲につながるようにノート検定を進めている。
「宿題以外の学習」出来ている児童70%、テレビやゲームの合計が1時間以内65%	学力調査の結果、漢字の書き取りにその成果が見られたが、ローマ字の読み書きに課題が見られた。量と測定の領域での論理的な思考を求められる問題に弱いところが見られた。	個別対応したタブレットも使いながら、児童の主体的な学びになるように授業を構成する。常タイムを使い、計算などの弱いところを鍛える。放課後の学習支援(いきいきクラブ)を工夫して行う
「本や資料を使って学習」出来ている児童80%	学力調査の結果、漢字の書き取りにその成果が見られたが、ローマ字の読み書きに課題が見られた。量と測定の領域での論理的な思考を求められる問題に弱いところが見られた。	個別対応したタブレットも使いながら、児童の主体的な学びになるように授業を構成する。常タイムを使い、計算などの弱いところを鍛える。放課後の学習支援(いきいきクラブ)を工夫して行う
「出来ている児童」あいさつ87% きまり・交通ルール93%	「出来ている児童」あいさつ87% きまり・交通ルール93%	時と場合を考え、自分から進んであいさつができるように、登校指導時の声掛けを大切にす。安全ノートを使用し、安全指導を定期的に行うことで、交通ルールを守るという意識を高めている。
他の人を思いやり親切に出来ている児童96%	「出来ている児童」大切にされている児童は、3%減少。外遊びが「出来ている」児童は、13%減少。	自己肯定感を高めるソーシャルスキルを必要に応じて行ったり、個々にあった丁寧な対応をする。遊び時間の十分な確保、遊び道具の整備をし、外遊びがしやすい環境を整える。業間マラソンを行い、体を動かす機会を設ける。
「出来ている児童」大切にされている93%	大切にされていると感じている児童は、3%減少。外遊びが「出来ている」児童は、13%減少。	地域でも子どもたちを大切に見守っていききたい。子どもたちが安心して遊ぶ公園が少ない。
「出来ている児童」外遊び73%	「出来ている児童」外遊び73%	公園などの整備の働きかけも必要。何かあれば、地域の交番への働きかけも大切。
小中合同研修会での意見交流 児童会生徒会の話し合い 双ヶ丘中ブロック教務主任会	児童会生徒会での意見交流 児童会生徒会の話し合い 双ヶ丘中ブロック教務主任会	朝ご飯は家庭の問題なので、難しい面があるが、子どもたちの成長を考えると、なんとかしてきたい。
「出来ている児童」読書84%	「出来ている児童」読書84%	朝ごはん摂取率を100%を目指して食べてきていない子の保護者に継続して声をかけていく。
朝ごはんしらべ 98%摂取している。	朝ごはんしらべ 98%摂取している。	



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月26日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
全国学力テストの結果、全市平均、全国平均よりもよい結果となり、教職員も子どもたちも頑張っていることがわかる。しかし、下位の子どももいるので、その子どもたちの学力保証も大切ではないか。将来の宇多野学区を担う子どもたちに、様々な学習を通して、地域学習をすすめてもらえることがありがたい。	地域での子どもたちの様子を見守っていききたい。
子どもたちは、きちんと挨拶ができていと感じているようだが、声を掛けてもなかなか挨拶ができない子どもも多いのではないかと。地域の者が学校に来ること多いので、自分たちからすすんで挨拶ができるようになってほしい。	地域に住む大人たちが悪い見本にならないように、大人も交通ルールを守るように働きかけていかなければならない。様々な場面で子どもたちが挨拶できるように声掛けをしていきたい。
地域でも子どもたちを大切に見守っていききたい。子どもたちが安心して遊ぶ公園が少ない。	公園などの整備の働きかけも必要。何かあれば、地域の交番への働きかけも大切。
朝ご飯は家庭の問題なので、難しい面があるが、子どもたちの成長を考えると、なんとかしてきたい。	朝ごはん摂取率を100%を目指して食べてきていない子の保護者に継続して声をかけていく。

平成28年度 学校評価実施報告書

宇多野小学校

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	少人数指導 ノート検定 タブレット学習の充実 帯タイムの重点指導内容の検討、「めあて・まとめ・振り返り」カードの活用 全クラス授業公開	話をよく聞いているか。授業中の発表はできているか。学習ノートを見やすく書いているか。各学力調査結果
	家庭学習の習慣化	自主学習のススメ冊子の活用、自主学習掲示板、調べ学習コンクールへの参加と振り返り	家庭学習で宿題以外の学習をしているか。
	学校図書館の有効活用	図書館活用の校内研究 司書教諭・学校司書との協力指導、地域ボランティアによる図書開館、朝読書 ボランティア・教職員の読み聞かせの実施 読書ノートの点検と活用	本や資料を学習に使っているか。資料活用能力、学び方指導
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	安全指導の徹底、登校指導、あいさつ運動、保護者・地域による行事の企画、参加推進	自分からあいさつができていますか。学校のきまりや社会のルールを守っているか地域行事に参加しているか。
	児童会の協働活動	たてわり活動の充実(様々な遊びの体験を増やす)、うたのタイムでの全校交流、ソーシャルスキルワークの充実	他の人を思いやり、親切にしているか。
健やかな体	自他を大切にす態度の育成	たてわり活動の充実	周りの人から大切にされているか。
	体力の向上	部活動の取組、業間マラソンの実施	外遊びやスポーツなどで毎日体を動かしているか。
独自の項目	家庭学習	自主学習の推進 アンケート	家庭学習で宿題以外の学習をしているか。
	学校図書館の充実 読書の習慣化	図書館活用委員会 司書教諭と学校司書との連携 読書ノートの点検と活用、指導内容の共通理解	本や資料を学習に使っているか。
	食に関する指導の充実	栄養教諭の食に関する指導 専門家と連携した伝統的食文化の授業	食育授業後の児童・保護者アンケート 生活点検



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月2日
	評価者・組織	学校評価委員会、課題表出ワークショップ研修
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「出来ている児童」話を聞く92% 発表70% 学習ノート89% 6年生の全国学力テストでは国語、算数共に全市、全国平均を上回った。	国語の基礎的内容はよくできている。ひねった算数の問題や立式の説明に課題が見られた。グラフや表、地図や方位にも課題が見られた。ノートをまとめる力についてはきたが、自分なりにまとめる力はこれから育てる。	漢字の書き取りの課題はねっこタイムの取組により改善された。今後は四則計算を繰返し練習していく。学び方指導を工夫し、資料活用力をつける。考える力は、日々の授業改善で力をつける。
宿題以外の学習「出来ている」児童72%、テレビやゲームの合計が1時間以内61% 調べ学習コンクール多数入賞	1年生から6年生まで自主学習に取り組み、各学級で紹介したり掲示したりするなどして定着してきた。しかし、意欲的な子どもとそうでない子どもがいる。	引き続き、自主学習の取組を推進し、交流掲示板を充実させる。家庭学習を推進するためにも、学校で主体的な学習態度を育成する。自主学習の取組が学級によって温度差がないようにしていく。
各学級に学び方指導で司書教諭や学校司書が入り協力指導をしている成果が出た。しかしグラフや表、地図や方位の定着の不足は、改善できる内容である。	各学級に学び方指導で司書教諭や学校司書が入り協力指導をしている成果が出た。しかしグラフや表、地図や方位の定着の不足は、改善できる内容である。	日常の授業の中で、資料活用や記録要約まとめなど、情報活用、図書活用などのところをしっかりとおさえていく。弱点として出てきた単元で特に強化する。ICT活用もどの学年も広がるようにしていく。
「出来ている児童」あいさつ85% きまり・交通ルール90%	あいさつ運動を3年生以上各学級で順番に行い、意識づけができた。しかしまだ挨拶が苦手な子どもがいる。	みんなて使う物を大切に、もとの場所に片づけることを指導する。挨拶は教職員みんなて段階的に指導していく。
他の人を思いやり親切に出来ている児童92%	下の子を世話する中での悩みや達成感を味わうことができていた。それを振り返る時間が必要。	教員や保護者が先に手を出してしまい、子どもが自分でできることまでやってしまわないようにする。
「出来ている児童」大切にされている93%	たてわり活動で上級生は下級生から感謝されることに喜びを感じていた。	道徳と特別活動、教科学習を関連させ、「思いやり」や「感謝の心」を養うようにカリキュラムマネジメントをする。
「出来ている児童」外遊び78%	めあてをもって業間マラソンに取り組む子が増えた。	業間マラソンと持久走大会をうまくつなげるようにする。
宿題以外の学習「出来ている」児童72%	おたよりに掲載するなど学級を基盤として自主学習が活性化するように工夫した。	できる子どもはどんどん深めていき、何をしてもいかにわからない子どもには、興味を引き出すなど自主学習も個別の関わりが必要だ。
宿題以外の学習「出来ている」児童72%	図書資料の充実ができた。授業で読書ノートを活用した。図書利用のスキルが身についた。	学校図書館を授業で利用するようにさらに進める。子どもたちの主体的な学びが進むよう考えさせる指導を研究する。
生活点検で前期に比べて、5%欠食が増えた。	寒くなり、正月をはさんで生活リズムが狂う傾向にある。食生活の改善は生活リズムの改善と密接に関わる。	生活点検の結果をグラフ化し、食育指導に使った。当事者意識でもって自分の生活を見直すように指導することが今後必要だ。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月2日
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
基礎基本の定着をねっこタイムを活用するのはいいことだ。授業や活動などで日ごから子どもたちに考えさせないといけない。グループ学習が有効だ。	地域学習でも子どもたちが自分で考え、達成感が生まれる学習になるように協力したい。
子どもの興味は大人の想像以上だ。いろいろな経験から興味をもつことが多い。	子どもたちが多様な経験ができるように、地域ならではの経験ができるように、支援したい。
学習面だけでなく、生活面でも自分で「こうしたい」という気持ちを持ち、自分で学ぶことができる力がこれからは特に大事だ。	地域の図書館ボランティアも放課後の図書館での学習や調べ学習を手伝っている。そうやって協力して子どもに力をつけていきたい。
学習規律の問題や物を大切にしない等の問題は、教職員が指導をするばかりではなく、子ども自身に考えさせるとよいのではないか。	親の挨拶の習慣や規範意識を育てないといけない。そのような場をどのようにもつと考えていく。地域からも声をかけるようにする。
たてわり活動で子どもたちが活動だけで終わるのではなく、振り返る場面を設定することが大切ではないか。	児童会で十分に話し合い、学校のきまりや目標を決めるようにすべきだ。
学級や学年、学校全体で「ありがとう」と伝える場面を意識的に増やしていく。	まず、保護者が子どもを大切にしなければならぬ。それを伝えていかなければいけない。
目標をもってスポーツを頑張る高学年の姿が手本になり、下級生によい影響を与えている。	マラソンを頑張っていることを地域も応援している。
授業と自主学習を関連づけたり、保護者と連携をとったりして家庭学習や主体的な学びを支援する。	家庭学習も保護者の考え次第だ。学校になんでも任せるとは、家庭で責任をもう少しもってよいのではないか。
司書教諭と学校司書がいたおかげで、学び方指導や図書資料の充実が実現した。	学校だけが頑張るのではなく、読書の大切さを家庭でも伝えられるような働きかけが大事だ。
食の指導と総合的な学習の時間とも関連させて、伝統野菜を育てたりしたことが子どもにとってよかった。	生活リズムをつくるのは、家庭なので、地域からも何かの機会に保護者へ伝えたい。

3 総括・次年度の課題

「自分で考える」、「自分で学習する」、「自分から人に関わる」、このような主体的な態度の育成を課題と考える。そのために基礎基本の学力を定着させ、図書館活用の力をつけ、主体的に学ぶための土台をつくる必要がある。日々の授業でどの教科でも学び方指導を行うとともに、考えさせる授業を研究していく。そのために、カリキュラムマネジメントを教職員で行い、地域とともに社会に開かれた教育課程を構築する。